

教宣 せぶん

「運動」から「たたかい」へ

私たちの歴史をひもといてみても、私たちを取り囲む状況・情勢・環境が、これほど大きく、そして激しく動いた1年はなかったと断言できます。そのあまりの大きさ、激しさに、1年前が、遠い昔に感じられる組合員も数多くいるのではないのでしょうか。

昨年までの支部の議案書には、「運動」という言葉がよく使われていました。労使協議という場が確保され、労使協調路線のもと、交渉・折衝していくのであれば、「運動」という言葉が、ふさわしかったはずです。しかし、これから始まる私たちのこの1年は、「運動」という言葉では表現できない厳しきや激しき、荒々しきに伴うことが予測され、まさに「たたかい」という言葉がふさわしい言葉だと考えます。

私たちは、自らの強い意志で、全損保日動外勤支部の道を選択しました。選択にあたって、この道が厳しいものであることを当然のごとく予想してましたし、日動外勤支部の道が「多勢に無勢」の無勢であることも十分に承知しての選択でした。逆境・逆風のなかで、新企業内に、全損保の視点を、足跡を残していく努力・苦労を、自らすすんで買って出たと自負しています。

新会社が立ち上がる10月1日以降の「社員制度の展望」や「労働組合の明日」は、まだまだ不透明で、課題は山積していますが、志を同じくする多くの仲間が全国におり、支部執行部を中心に固い絆で結びついています。団結力や仲間を思い、気づかう気持ちは、かえって1年前より強くなっていると肌で感じますし、情報の伝達スピードも格段に速くなっています。

「無勢」でもできることがありますし、長いものに巻かれなかった組織にしかなできないこともあります。そういった組織の特性や存在感、そしてなによりも、全損保日動外勤支部の伝統の力・技をいかんなく発揮して、この1年、支部がかかげる運動方針のもと、堂々と自らの存在を示し、堂々と自らの主張を繰り広げていきます。たたかって、自らの明日を切り拓いていきます。